

蓬萊町だより

第三十一号  
平成4年2月20日  
蓬萊町会  
文化発行者  
編集者

蓬萊町界隈 (その二十七)

わが小学生の頃

林 順信

●少なかった祝祭日

私の家はあの三月十日の大空襲で焼けるまで、蓬萊町七番地にあった。現在でいうなら、郁文館中学のすぐそばの路地のつき当たり、原さんのところにあった。家の裏わずか五軒くらい離れてあった漱石の「猫の家」が無事に戦火を免れたことは、今から考えても不思議な風のいたづらだったと思えない。

私の家の路上の入口角の魚金の金子さんのおじいさんの家(旧市川君の家)に、焼夷弾がばらけずに、束のまま直撃したものだから、我々の手では消すことも出来なかった。私の家の東側の塀は、空襲に備えて自由にとりはずすことが出来る様にしてあったので、東大農学部農園に難を逃れた。

駒込蓬萊町の住民は普通なら、現在は向丘高

校のところにあった駒込尋常小学校に入学したが、私は、母も伯父も伯母も多くが学んだ西片町の誠之尋常小学校に入学した。昭和十年春のことだった。当時の誠之学校は既に越境入学生が多く、一学年は六クラスで、一クラスは約六十余名いたから、全校生徒は二千人を越した。昨年三月は、私も昭和三年の子が卒業して丁度五十年を迎えた。

近頃は小学生も大人達も休暇が多くて、羨しい限りだが、以前は一年を通じて完全に休める祝日は極めて少なかった。戦争中は大切なものを疎開させてあったので、わが家に残る通知簿をたよりに、当時の祝祭日を整理してみた。

- 四方節 一月一日
- 紀元節 二月十一日
- 地球節 三月六日
- 春季皇霊祭 三月二十一日
- 天長節 四月二十九日
- 靖国神社祭日 四月三十日
- 白山神社祭日 九月二十一日
- 秋季皇霊祭 九月二十三日
- 神嘗祭 十月十七日
- 靖国神社祭日 十月二十三日
- 学校創立記念日 十月三十日
- 明治節 十一月三日
- 新嘗祭 十一月二十三日

右のうち○印のある祝祭日には、家でごろこ

ろしていることは出来ず、小学校の講堂で式典を行い、唱歌をうたって、紅白のお供物を貰って帰って来たので、午前十一時頃までは、学校へ動員された。お供物というのは、紅白の丸型の打葉子で、下地に白ボールをあてがい、日章旗と軍艦旗のぶちがいの絵が描かれた紙でくくるんであった。東大農学部の紅谷で納めていたと思う。

それに比べて、現在の休暇日数は年々増加して来ている上に、本年秋季からは、月のうち半分は、土曜日に休校となるから益々余暇というのが増えるわけだ。

しかし受験戦争下の児童たちは、大方は学習塾に行く日数が増えるだけの悪影響が出てくることは十分に考えられる。「ゆとりある豊かさ」なる言葉は、現今の日本人に最も出来ないことの一つだから、ろくな手当てもせずに、フレックスタイムのみを与えても、子供達の間には、知識力の落差を増大させるだけとなるおそれが十分にある。今の日本人ならきっとそうになってしまうのだろう。

●私の通知簿は不忍池みたい

疎開のお蔭で、小学生時代の通知簿とか免状とかが残されているが、私は蓬萊町にいた患童どもと遊んでばかりで、学校から帰ってくるなり、靴もぬがず、ランドセルをそのまま家に放り投げて日が暮れるまで外で遊びほうけていた

ので、通知簿は、三味線（甲のことを形が似ているのでそう呼んだ）はほとんどなく、「あひる」と呼んだ乙の連続で、まるで不忍池の水鳥の行進を眺めている様だ。

成績が余りひどいので、根津権現の池の水で通知簿を洗って、インキで甲に書き直す悪童もいた。

昭和十三年の四年生の成績は特にひどくて全十教科のうち、唱歌と体操の二つだけが甲で、あとは全部乙の行列だった。六十人中で、私の席次は四十五番くらいだったと思う。この誠之学校というのは、いわゆる勉強の出来る生徒が多くて、三学期末の終業式では、一クラスに二十五名という、他校では考えられない程の優等生の賞状がくばられていたが、四十五番ではそれにも遠く及ばなかった。

当時本郷区で一番足の早かった私は、運動会の日だけが晴れの舞台で、賞状といえば、リレーで優勝した時のものばかりであった。

こんなに成績が悪くても、特に文句を言われることもなかったし、自分でも仕方がないとも考えなかった。欲が全くなかったのだ。

それが、小学五年生から六年生にかけては、何の風の吹きまわしか、いきなり全甲へと一足とびに通知簿だけは改善された。それでも席次は六十人中の四十番だった。

現在と異って、ある平均点がとれば人数に

は関係なく、何人でも甲はくれた。五年生、六年生になると、私だけではなく、全員の実力が上昇したということだった。来るべき入学試験に合わせて、全員が勉強時間を多くしたまのであった。

私の一級上の人たち、（昭和二年生まれ）から、中等学校への入試は筆記試験は皆無となり、内申書と口頭試問だけと改正されたから、誠之学校の様に筆記なら強い生徒ばかりの学校は不利となった。いくら出来ると思われても、一クラスで四十番ではどうしても採れないという学校も出て来た。私は他はかえりみずして、私立の京華中学校へ、三十七名の級友と共に入学した。京華中学の磯江素雄校長もまた、誠之学校の大先輩だったからでもあった。

京華中学の口頭試問では、①将来どんなことをやりたいか？②なぜ京華中学を受けたのか？

(31)

学業成績表		出席表	
姓名	林 順信	出席	欠席
学年	四年	一月	二月
学期	三	三月	四月
教科	国語	五月	六月
	算数	七月	八月
	理科	九月	十月
	社会	十一月	十二月
	英語	合計	
	音楽		
	体育		
	美術		
	労働		
	家庭科		
	その他		
合計			



③アジアにおける独立国とその首都を知っているだけ述べよ。ということだった。

昭和十六年四月、京華中学に入学してみると上から三十名近くも落第して来た兄弟分がいるのには驚いた。昔はいとも簡単に落第させたし、落第したものだった。京華中学に入っても、私をぬく程の足の速い生徒はいなかった。

昭和十六年の入学生から、服装が戦時色豊かになって、戦斗帽にカーキ色の軍隊式の上下服と、ゲートル巻で通学することとなった。一年以上上級生までの黒い制帽、紺の制服が羨しかった。従って落第して来た連中は、帽子から制服までが一変させられる破目にあって気の毒だった。

その年の十二月八日に、第二次大戦へと突入して行ったのだった。

学業成績表		出席表	
姓名	高野 順	出席	欠席
学年	四年	一月	二月
学期	三	三月	四月
教科	国語	五月	六月
	算数	七月	八月
	理科	九月	十月
	社会	十一月	十二月
	英語	合計	
	音楽		
	体育		
	美術		
	労働		
	家庭科		
	その他		
合計			



## 年輪を重ねて

内海 一元

(根津神社名誉宮司)

私は東京の浅草生れの芝育ち、そしてこの根津に大正八年いらい住んでいますから、自分では純粋な東京人と思っています。もっとも内海家は千葉の成田のそばの上福田という所の代々神主家ですから、チャキチャキ純粋の江戸っ子とは言えないかもしれません。

父が浅草に住み学校教師をしているときに私は生まれました。男三人に女二人の五人兄妹の一番上の長男として。いま江東の東大島神社に奉仕している利彦が三男坊で、次男は昭和十四年に東大工学部を出て正田飛行機に入り、最後は株式会社柴田の相談役、昭和六十二年に七十二歳で歿しました。生まれた浅草のこと、何しろ二歳ですから何も覚えていません。のちに移った千駄木で五年程育ち、やがて芝で白金小学校に入りましたが小学校四年のとき、父が教員を退職して根津神社の社司になりましたので根津に転居、根津小学校に転校しました。いらいずと根津に住んでいるわけですから、私は殆ど人生をここですごしたことになります。

家が神社への奉仕なので私は幼いときから神職になろうと思っていました。少年時代は威勢の良い餓鬼大将といふよりも、むしろ読書を好

むおとなしい性格で、これは昔も今も変わっていませんね。京北中学を出て国学院大学の国文科に進みましたが、穏当な道だと思っています。学友も今はもう大分亡くなりましたが、神道科の喜田川さんが弓道部で親しく、この対談に出ておられましたので懐しいですね。時々はお会いしますが、お元気そうな様子を喜んでおります。

### 待望の神職へ

昭和七年、国学院大学を卒業するとすぐ、官幣大社日枝神社に御奉仕することになりました。当時の宮司は宮西惟助氏、厳しい人、怖い人と斯界では評判の宮司さんで、確かに大分叱られるはしましたが、もっとも宮司様は叱っているのではなく注意しているのであって、注意をうけることはすべて当然のことばかり。いつも申し訳ないことをしたとは思いましたが、注意をう



幼少のころ

けて当然、あれで良い勉強になったと思います。それに叱るけれども宮西宮司様は実に温情あふれる人情家で、その温かさが厳しい中にも伝わってくるような方でした。

宮西宮司は昭和十四年日枝神社大祭の日に帰幽され、後任には秋岡保治氏が就任されました。秋岡さんは宮西さんとは違って、絶対に部下を叱らない穏やかな人でした。ときには静かに注意はされましたが、しかし、叱られないのは逆に自分に責任を持たねばならない。緊張はしましたね。

ところで私の履歴書を見ますと、昭和十九年に日枝神社の禰宜を辞して根津神社の社司に就任となっています。実はこの年、応召するにあたり十二年間お世話になった日枝神社を辞し、席を根津神社に移して出征したのです。十二年前の徴兵検査のとき、「君のようなものに赤紙がくるときは日本が負けるときだ。まづないだろう」と冗談を言われていたのですが、「その「まづないだろう」が三十をすぎた私にやってきました。

### 出征、敗戦、戦後

令状をうけて出頭した私は、何とその一週間後には北支の大原という前線におりました。山西省大原は閻錫山の鎮地、本来なら当然その指揮下の山西軍と戦うのですが、実は山西軍とは和し、山西軍とともに、その敵八路军と戦っていました。そこで終戦を迎えたとき、皇軍の中のある者は話をして山西軍に入り、閻軍になりましたし、残った私共は翌昭和二十一年、米軍

のマーシャル元帥がやってきて注意するまでとめおかれたわけです。

東京はじめ日本中で、また各戦線での間に色々な悲惨な事件が相次いだのですが、私共は全く情報を知らされず、本土のことも、ましてや神社や家族のことも全く知らされないうちに二年間の空白を持ってしまった結果となりました。

### 畏れ多い神社の姿

昭和二十一年五月復員、九州に上陸した私は直ちに東京へと向いました。山陽線から東海道線の沿線、それはかつて美しかった同じ日本とは思えない無惨な姿でした。どこもこれも空襲でやられて、全くの焼野原でした。これが東京までつづきました。東京駅から都電で根津神社へ向うと、何と不忍の池の北からは焼け残っていました。その奥が根津だ、お宮が残っているかもしれないと胸高鳴らせて駆けつけました。ところが、何と御社殿だけが僅かに前の部分を残して、大部分は完全に焼けてしまって、あとは完全に残ったのですが。

「やはり駄目だったか」と私はその場に立ちつくしました。

(以下次号へつづく)

### 青年部から

青年部長

池田秀男

例年、新春もちつき大会から年末の夜警まで、様々な活動をしておりますが、平成3年度の活動について大まかに報告させていただきます。

6月には、初めての試みとして、駒本小学校体育館を借りてビーチボールバレーをやってみましたところ、子供からお年寄まで、多数の方々が参加して下さり好評でした。

7月は例年通り、中央宣伝、国際ディスプレイ両社の協賛による「親と子の工作広場」を大観音で催しました。毎年たのしみにして下さる方が多いので、夏休みの行事として続けていきたいと考えております。

8月25、26日の両日には、2年に1度の盆踊りを大観音で開催しました。天候にも恵まれ、町会役員、婦人部の御支援と、町会員の皆様方の御協力により盛大に挙行することができました。厚く御礼申し上げます。

10月に2回目のビーチボールバレーをやったのですが、人があつまらず行事を継続する事の難しさを、痛感する一日でした。

11月は防災訓練で、各町会対抗のコンクールに出ましたが、成績はいま一でした。

12月例年通り夜警を実施、多くの方々の、御

協力により無事終了いたしました。

以上町会の皆様に参加して頂く行事の他に、部員の親睦のため、9月15日には東京湾で、ハゼを釣り、12月1、2日に研修会を行い大山に登ってまいりました。

このような行事を通じて、町内がお互いに関心を通じあえれば、と考えるからも色々な活動をして参りますので、御意見、御要望をお聞かせ頂ければ幸いです。

また、一緒に活動をして下さる方(年令制限はありません)は大歓迎ですので、お気軽にお声をかけて下さい。お待ちしております。

### 編集後記

昨年は世界にとっても日本にとっても大変動の年でした。その余波で、今年は堅実に心を締め歩かなければならないと思えます。

昨春秋「神社新報」という新聞に、根津神社の内海元名誉宮司の自叙伝が掲載されました。なかなか貴重な内容ですので、根津様のお許しを得てご披露いたします。

紙面の都合で「町会活動の概要」は次回にまとめさせていただきます。

### 編集委員

小林音吉、竹中一馬、高橋一郎、  
猪熊良晃、池田暉